

平成29年度

吹田市第2次環境基本計画 改訂版の 進捗状況に係る 環境審議会評価（案）

この冊子の位置づけ

「平成29年度 吹田市第2次環境基本計画 改訂版に係る環境施策の実績集約・自己評価【内部評価】」をもとに、事務局で作成したもので、今回、審議会委員の皆様にご意見をいただきたい内容を示しています。

内容を御確認いただき、修正意見等がございましたら事務局まで御提出ください。

なお、いただきました御意見については、とりまとめの上、審議会当日にお示しいたしますので、審議していただきますようお願いいたします。

目標ごとの審議会評価

1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換

最新の平成27年度（2015年度）のエネルギー消費量については、平成23年度（2011年度）の原発事故の影響による電力需給のひっ迫に伴う節エネルギー意識の向上や涼しい夏となった気候の状況等により、家庭部門及び業務部門で減少となっています。また、平成27年度（2015年度）は、特に産業部門においてエネルギー消費量が減少しており、その結果、市域のエネルギー消費量も減少しています。温室効果ガスの排出量については、エネルギー消費量の減少に加え、電気の排出係数^(※)も減少したことにより、減少しています。今後さらに、限られたエネルギー資源の中でのライフスタイルや事業活動の転換が求められています。

平成29年度（2017年度）は、市民・事業者への節エネや省エネ機器、再生可能エネルギーの導入についての啓発・誘導が実施されるとともに、市役所の率先行動としての節エネ、省エネ機器等への更新・導入、再生可能エネルギーの導入が行われています。

今後、これらの取組をさらに展開するとともに、市域における再生可能エネルギーの積極的な導入、省エネ機器等への更新・導入を進めるなど、低炭素社会への転換をめざし、取組みを加速させることが求められています。とりわけ市域で最もエネルギー消費量の割合が大きい業務部門の削減を進めるためには、公共施設において、エネルギー消費量の大幅な削減に向け、率先して再生可能エネルギー及び省エネルギー機器等の導入や更新を進めるとともに、その成果やノウハウを市内の事業所へ情報提供を行うことで、導入促進を図る必要があります。

また、エネルギー消費量、市域の年間温室効果ガス排出量及び吹田市役所の事務事業に伴う温室効果ガス排出量については、このままでは平成32年度（2020年度）の目標達成が極めて困難な状況であることから、平成28年（2016年）3月に策定した「吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）」において定めた施策を積極的に取り組んでいく必要があります。

(※) 電気の(CO₂)排出係数とは、電気の供給量(1kWh)当たりどれだけのCO₂を排出しているかを示す数値です。電気の使用に伴うCO₂排出量は(電気の使用量)×(電気の排出係数)で算出します。排出係数が増加すると、CO₂排出量も増加します。火力発電の割合が高くなれば、一般的に電気の排出係数が増加します。

2 資源を大切に作る社会システムの形成

市民1人当たりのごみの排出量は、ごみ減量・再資源化を推進する様々な取組みの結果、年々減少傾向にあります。市民の身近な環境活動の1つであるマイバッグの持参率については横ばいでしたが、平成30年6月以降北摂地域におけるレジ袋の無料配布を中止する趣旨の協定を締結する等、取組みの前進がみられ、今後は持参率が向上することが見込まれます。また、リサイクル率は近年減少傾向にありましたが、改善の兆しがみられます。目標達成に向け、今後さらにこれらの取組みを進めるためには、平成29年（2017年）3月に改訂された「吹田市一般廃棄物処理基本計画 後期改訂版」に基づき、更なる市民・事業者の意識の向上及び環境に配慮した行動への誘導を図る必要があります。具体的には、食品ロスの削減、廃棄物減量等推進員制度の活用による雑がみ等の資源ごみの分別排出の徹底、再生資源集団回収の活性化や溶融スラグの資源化促進、多量排出を行う事業者への指導・啓発の充実、及びレジ袋無料配布中止協定締結事業者との連携によるマイバッグの持参に関する啓発の充実などの取組みを進めていく必要があります。

3 健康で快適なくらしを支える環境の保全

環境汚染防止対策については、監視体制の充実や市民、事業者への啓発活動の推進により、着実に施策や取組みが進んでいます。平成29年度（2017年度）は、平成28年度（2016年度）に引き続き大気中の二酸化窒素濃度の環境目標値達成率100%（全測定局数4局）が維持されています。今後も引き続き、大気汚染や水質汚濁などの環境汚染に適切に対応するため、きめ細やかな規制や誘導、啓発を進める必要があります。

環境美化の推進については、環境美化の啓発や違法簡易広告物の撤去等の環境美化活動を市民、事業者と連携して実施しています。今後も公共空間の美化、住環境の向上に向けて、市民、事業者との連携・協働による取組みを継続する必要があります。

近年、都市部で注目されているヒートアイランド現象の緩和・抑制に向けては、吹田市役所エコオフィスプランや環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】の手続きを活用して、公共事業、開発事業ともに対策の促進が図られています。また、歩道等における導入の推進により、透水性舗装面積の累計が平成29年度（2017年度）に目標を達成しています。今後も、特に夏場における省エネルギーを推進するとともに、建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化など、地域特性に応じた具体的な施策や取組みを進める必要があります。

4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成

平成27年度（2015年度）に、緑あふれる未来サポーター制度（公園）の登録団体数が目標値を達成しています。また、緑化路線延長累計は、平成26年度（2014年度）に目標値を達成しています。一方、平成26年度（2014年度）の市域面積に対する緑地面積の割合が把握されていますが、生産緑地地区面積等が減少したため、平成21年度（2009年度）と比較してその割合が減少しています。また、平成29年度（2017年度）は都市公園面積は増加しましたが、人口も増加したため、市民1人当たりに対する都市公園面積は横ばいです。今後も、平成28年（2016年）8月に改訂された「吹田市第2次みどりの基本計画 改訂版」に基づき、質及び量の双方を重視した緑化を推進する必要があります。

5 快適な都市環境の創造

平成29年度（2017年度）は、指標に関する調査が実施されていませんが、今後も目標値達成のため、引き続き市民・事業者等への啓発や取組みの支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取り組んでいく必要があります。

交通環境については、市民向けの公共交通マップを作成・配布し、自動車利用の抑制を図るなど啓発が進んでいます。また、コミュニティバスの利用人数や移動経路のバリアフリー化率も年々、増加傾向にあり、取組みが進んでいることが伺えます。ただし、移動経路のバリアフリー化率の目標達成のためには、加速度的に取組みを進める必要があります。

市域の開発に対し、すまいる条例や環境まちづくり影響評価条例、環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】を運用し、環境に配慮した開発事業の誘導が図られています。今後も、引き続き、これらの制度を積極的に運用し、効果的に誘導することが必要です。

重点プロジェクト

①地球温暖化対策の推進

地球温暖化対策に係る地域特性に応じた取組みとして、大学と連携した持続可能な社会構築のためのワークショップを開催するなどの取組みが進んでいます。また、市民、事業者、行政の3者協働組織である「アジェンダ21すいた」において、地球温暖化に関するイベントを開催し、市民への啓発を図るなど市民・事業者との連携による取組みも実施されています。併せて、市の率先行動としての節エネの取組み、公共施設における再生可能エネルギーの導入も進んでいます。その他、再生可能エネルギーの導入拡大を創出することを目的に、再生可能エネルギー比率の高い電気を供給する等、環境に配慮した小売電気事業者が開始されるなどの新たな取組みも行われています。

今後も引き続き、市民・事業者との連携のもと、地域特性に応じた施策や取組みを展開するとともに、公共施設における省エネ機器や再生可能エネルギーの導入を加速させる必要があります。

②ヒートアイランド対策の推進

ヒートアイランド対策については、吹田市役所エコオフィスプランや環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】を活用した対策の促進が図られています。また、みどりのカーテン講座など、市民が身近に実践できる取組みについての啓発も進んでいます。

今後も引き続き、これらの取組みを進めるとともに、建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化に努めるなど、長期的な視点に立った施策や取組みの検討及び実施が求められています。

③環境パートナーシップ（連携・協働）の推進

環境パートナーシップの推進については、前述のアジェンダ21すいたとの連携・協働による取組みとして、エコキャンドル講座の実施のほか、市民公益活動センターにおける環境に関わるフェスタ（南千里かえっこバザール）の開催や、千里リサイクルプラザと共催での環境学習の発表会を開催するなど、連携活動が取り組まれています。また、平成28年度（2016年度）に引き続き、本市と能勢町を活動地域とする森里川海の適正な管理と活用による「地域循環共生圏」の構築に向けた取組みが行われています。

今後もこれらの取組を積極的に展開するとともに、プラットフォーム組織の形成・拡充が図られるよう、支援や情報提供、情報共有を進める必要があります。

④学校での環境教育（エコスクール）の推進

エコスクールの推進については、エコスクール活動簿（環境の取組にかかるチェックシート）を活用した児童、生徒、教員の環境に対する意識の向上が図られています。また、みどりのカーテンやビオトープ、学童農園など実践的な取組や太陽光パネルの導入などの施設面での整備も実施されています。

今後、教育部門や環境部門をはじめ、関係部門による連携を強化しつつ、更なる取組みを展開する必要があります。

⑤地域における環境教育の推進

地域における環境教育の推進として、廃油石鹸作り、ごみの分別方法、みどりのカーテン講座などの地区公民館講座や、環境問題について理解と認識を深めるための「すいた環境教育フェスタ」が開催されています。また、学校や地域で環境保全活動を実践する人材の育成に向け、幅広い世代を対象とした「すいた環境サポーター養成講座」を開催し、新たに11名が修了されています。

今後も引き続き、市民が参加しやすい実践的な講座を企画・開催するとともに、環境活動を実践するNPO団体等への支援及び人材の育成に取組む必要があります。